

音楽は人の心と人の心をつなぐ。  
音楽は人の心を安らげる。  
スキンケアは人の心を安らげる。

---

なと思います。むしろ、今までの BIFC の議論を「音楽」と並べてみると、かなり本質が見えてきます。

音楽は、何かの薬を脳に「入れる」のではありません。

音・リズム・振動という外部環境を介して、人の神経系や感情状態に働きかける。

だから、

- 音楽は人の心と人の心をつなぐ。
- 音楽は人の心を安らげる。

というのは自然に理解できます。

そしてスキンケアについても、同じような構造を考えられる。

スキンケアも「心への入口」になり得る

皮膚は単なる「身体の表面」ではなく、外部環境と身体を隔てる巨大な生体界面です。

そこに毎日触れる。

- 水
- 温度
- 湿度
- 摩擦
- 香り
- 化学物質
- 微生物
- 界面の状態

こうした外部環境が皮膚を介して身体に入力される。

その結果として、皮膚だけでなく、感覚・自律神経・ストレス応答などを含む身体状態にも影響し得る。

だから、

音楽 → 聴覚という界面 → 神経・情動 → 心

に対して、

スキンケア → 皮膚という生体界面 → 身体状態  
→ 心

という構造が考えられる。

ここが面白いところです。

ただし、科学的には一段階慎重にする

「スキンケアは人の心を安らげる」と断定するより、

「皮膚を介して、心が安定しやすい身体環境をつくる」

の方が、BIFC の思想にも科学的にも強い。

そして BIFC の場合は、さらに一歩進めて、

- 「何かを皮膚に与えて心を変える」のではなく、
- 「皮膚と外部環境の界面を整えることで、身体が安定しやすい状態を支える」

という発想になる。

これは、これまで話してきた

成分を与える → 環境をつくる

への転換そのものです。

だから私は、BIFC の将来像を考えるなら、

音楽が「音の環境」を設計するものだとなれば、BIFC は「生体界面の環境」を設計するもの

という比較はかなり面白いと思います。

そして、

音楽が人の心と人の心をつなぐように、  
生体界面を整える技術は、人と環境、人と身体、そして身体と心をつなぐ。

ここまで来ると、単なる「スキンケア」の話ではなくなってきます。